

魅力ある学校づくり協議会 (上板橋第二中・向原中) ニュース

第1号

発行日：平成26年8月11日
 開催日：平成26年7月22日
 発行：板橋区教育委員会事務局
 新しい学校づくり担当課
 学校配置調整担当課長
 電話 3579-2624

区立上板橋第二中学校及び区立向原中学校は建設より50年以上経過し、改築にむけて検討する時期を迎えています。また、向原中学校は過小規模化により対応を要する学校であることから、教育委員会は平成26年2月に「いたばし魅力ある学校づくりプラン」を策定し、その中で両校の関係者を構成員とする協議会を設置して、改築にむけた検討を進めることとしました。このたび、協議会が発足したため、委員と協議会の概要についてお知らせします。

協議会委員をご紹介します（敬称略）

平成26年7月22日（火）向原中学校で第1回協議会を開催しました。協議会は、両校の保護者（PTA）、通学区域内の地域関係者、学校関係者、学校長、教育委員会事務局次長で構成されています。

	区立上板橋第二中学校関係		区立向原中学校関係	
1	上板橋第二中学校 PTA 会長	勝 紀 寿	向原中学校 PTA 会長代理	鳥 海 壽 乃
2	上板橋第二中学校 PTA 副会長	安田 久美子	向原中学校 PTA 副会長	伊 藤 千 賀 子
3	上板橋第二中学校 PTA 副会長	森 麻 恭 子	向原中学校 PTA	(調 整 中)
4	小茂根三丁目町会青少年副部長	田 口 昌 浩	大谷口支部支部長、大谷口二丁目町会会長	大 野 一 征
5	茂呂町会会長	竹 内 捷 郎	大谷口一丁目町会会長	大 野 鎮 男
6	小茂根一丁目町会会長	小 宮 功	向原町会会長	大 野 喜 好
7	小茂根二丁目町会会長	小 林 照 由	向原住宅自治会会長	是 川 邦 子
8	上板橋第二中学校同窓会会長・ 上板橋第二中学校元 PTA 会長	宇田川 哲男	向原中学校同窓会会長・向原中学校元 PTA 会長・学校運営連絡協議会委員・青健大谷口地区委員会少年補導員	三 原 登 美 雄
9	上板橋第二中学校前 PTA 会長・ 学校運営連絡協議会委員	橋 本 修 一	向原中学校元 PTA 会長・学校支援地域本部コーディネーター	大 野 政 寛
10	上板橋第二中学校元 PTA 副会長	今 井 英 彦	向原中学校前 PTA 会長・学校運営連絡協議会委員	中 田 貴 文
11	上板橋第二中学校長	塩 野 賢 一	向原中学校長	新 飯 田 潤 一
	教育委員会事務局次長	寺 西 幸 雄		

教育委員会挨拶（抜粋）

—寺西教育委員会事務局次長—

区立学校の現状として、児童・生徒数は昭和 50 年代のピーク時より半減し、一方で、小中学校は昭和 30 年代に改築した学校が多数あります。このため、少子化の現状に合った教育環境整備と施設の老朽化の改善という 2 つの課題に直面しています。

このような状況下、単学級の中学校では 3 年間同じメンバーで授業を受けることになる課題に加え、部活動の種目が限られる問題があります。また、老朽化の進む設備は、現代の教育に必要な ICT 教育や協同学習、少人数学習等の弾力的な授業や教員の授業改善に対応しにくい現状となっています。

こうした新しい教育設備を整えた学校を整備していきたいという思いから、平成 26 年 2 月に「いたばし魅力ある学校づくりプラン」を策定し、対象校として上板橋第二中学校と向原中学校を選定させていただきました。これから、学校統合や改築に向けて皆様のお知恵をいただきながら、魅力ある学校を作っていききたいと考えています。よろしくお願いいたします。

協議会の名称

「魅力ある学校づくり協議会（上板橋第二中・向原中）」と決定しました。

協議会会長

寺西委員が会長として選任されました。

協議会会則

魅力ある学校づくり協議会（上板橋第二中・向原中）会則が決定しました。会則については板橋区ホームページでご覧になれます。（4 頁文末参照）

第 1 回協議会内容

事務局から「いたばし魅力ある学校づくりプラン」のスライド説明があり、その後質疑応答や意見交換を行いました。

質疑応答・意見

委員：現在、区内の児童数が減少しているのは分かりますが、過去に行った板橋区の学校の将来推計では現在の減少をとらえていたのですか。将来推計と実際の人口推移の検証ではどのような結果となっていますか。

事務局：今回「いたばし魅力ある学校づくりプラン」で示した人口推計は、平成 22 年の住民基本台帳上の人口を基本としています。全国規模で少子化が進んでおり、都市部は一時微増しますが、最終的には減少すると予測されています。板橋区においても人口減少は過去に予測したよりも緩やかになっていますが、将来的に人口減少していくことは全庁的な認識となっています。概ね推計通りに推移していると考えています。

会長：事務局は次回の協議会で数年前の人口推計と人口推移を示してください。

委員：地域の一般的な意見としてお話しします。学校統合に伴い通学距離が遠くなる家庭も生じるのではないのでしょうか。学校選択制が原因となって、改築された新しい学校に生徒が集中したり、学校がなくなるのではないかという噂で生徒数が減るなど、学校間の生徒数のバランスが崩れているのではないかと思います。学校選択制は今後も継続していくのですか。学

校選択制の課題について教育委員会は認識しているのですか。

事務局：学校選択制の見直しにより通学区域校への通学を基本とする制度へ変更しています。小学校は隣接校までとなり、中学校については隣接校の制限はありませんが、いずれも通学距離や交友関係、部活動などの理由を記入して申し込むことになりました。教育委員会としては、学校選択制が極端な生徒数減少の一つの原因であるという認識はあります。

委員：制度を変更したといいますがあまり変わってないと思います。(同意見ほか1名)

委員：通学区域校以外の学校を希望する際の要件を、通学距離や通学時間など一定要件のみに限定すべきと思います。他区の学校へ行く影響も大きいです。上板橋第二中か向原中いずれかが校地となり、それに伴って新しい通学区域を整備していくことが考えられますが、その際に通学距離や通学時間の整備を行って欲しいです。

事務局：統合後の通学距離や通学区域については、協議会の中でも議論いただきたいと考えています。学校選択制の課題についてのご意見をいただいておりますが、一方で学校を選択する権利があるのも事実です。

会長：次回、学校を変更する制度について、また、今後どうしていくのか教育委員会としての考え方を整理して事務局から説明してください。他区の学校への入学制度についても説明してください。

委員：新校になった際、他区の生徒も受け入れるのかも併せてお願いします。

委員：上板橋第二中または向原中から他区の中学校へ入学した理由は分かりますか。

事務局：理由は調査していないのでお答えすることが難しいのが現状です。

委員：向原中の生徒数減少の理由として、練馬区と豊島区に隣接していることから、他区への流出が続いています。板橋区民は板橋区立学校に通うという方針がないと流出が防げないと感じます。また、板橋区の学校に他区在住者が通ってよいのでしょうか。

事務局：区の方針として他区の中学校への通学は現在可能です。しかし、運用については調べて次回の協議会で回答させていただきます。

委員：小茂根3丁目町会・茂呂町会は桜川中の方が近くなると思いますが、今後通学区域を変更した際には、桜川中が同地域を受け入れられるキャパシティはあるのでしょうか。

委員：いたばし魅力ある学校づくりプラン28・29ページに掲載されている、上板橋第二中と向原中を統合した時の生徒数予測と桜川中の生徒数予測では後者の方が少ないので、受入ができるように見受けられます。

事務局：通学区域については協議会で協議していきます。現状では桜川中に受け入れできると考えています。

会長：事務局から生徒数予測のシミュレーションを次回の協議会で示してください。

委員：小中一貫校については、品川区・練馬区で始まっており、文部科学省でも推進について検討されている中で、教育委員会としては、小中一貫校についてどう考えているのですか。板橋の魅力を発揮するために、小学校も一緒に考えた学校づくりを行ってはいかがですか。

